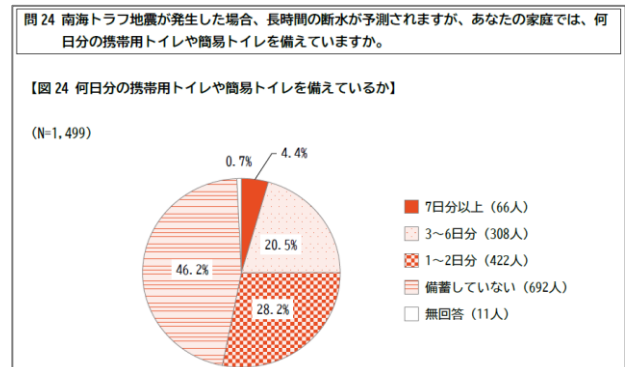
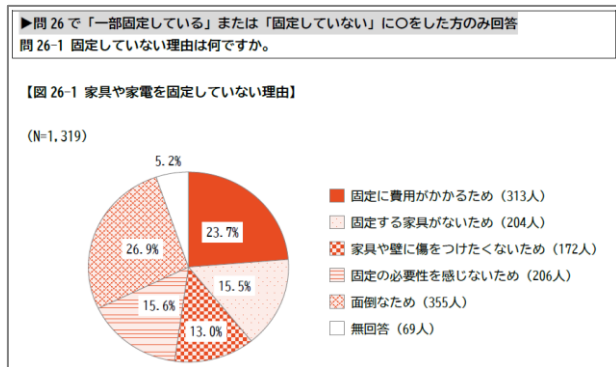
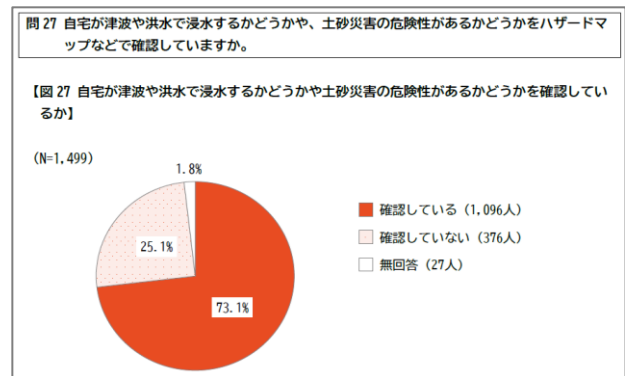
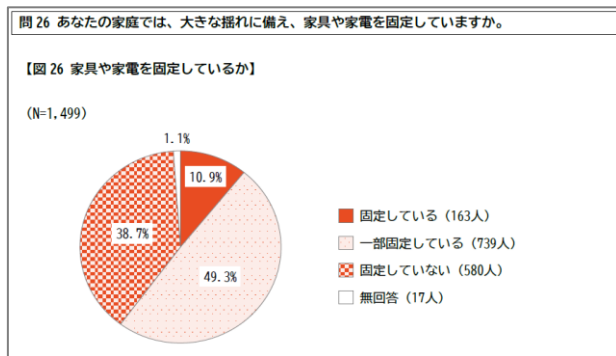


深堀シート

問題（ギャップ）を解消するための解決策をご提案ください。

担当課	危機管理課
前提	課題： ギャップを埋める ためにすべきこと 現在 2025年7月 2030年7月 あるべき状態 問題(ギャップ)： あるべき状態と 現実の状態の差
テーマ	災害への備えに対する正しい知識を多くの市民に知ってもらいたい
あるべき状態	いつまでに：2030年7月までに 定性的： 食料よりも本当に必要な災害への備えができていない状態。 ①地震対策として、住宅の耐震化や家具固定など命を守るための備えができていない状態。 ②台風や集中豪雨等の災害種別毎の避難行動を知り、「自宅が安全であれば自宅在宅避難」など適切に対応できる状態。 ③避難所等のトイレ環境を知り、各家庭で携帯トイレを備蓄している状態になること。 定量的： ①家具を固定している・一部固定している人：70% ②自宅の危険性に関わらず避難情報が発令された際に避難所に行かなければいけないと思っている人：50% ③3日分以上の携帯トイレを備えている人：50% なぜ？： ①南海トラフ地震発生時、建物倒壊等により約500人が亡くなってしまう。また、家具類の転倒等によりケガを負い避難が遅れるなど被害の拡大に繋がるため。 ②台風や集中豪雨の場合、避難所に行くまでに洪水に流されてしまう恐れがあることや、避難所等は冷暖房設備がなく、感染症や犯罪のリスクもあり、自宅が安全であれば自宅避難の方が快適に過ごすことができるため。 ③災害時、トイレに行く回数を減らすために水分摂取を控える傾向があり、その結果、脱水症やエコノミークラス症候群などで命を落とすこともあるため。
現在の状態	定性的： 出前講座等で、以下の考えや認識を市民が持っている印象を受けた。 ①重要性は分かっているが、住宅の耐震化や家具固定をしていない状態。 ②自宅が安全な場合でも避難所に行かなければいけないと思っている状態。 ③携帯トイレを家庭で備える必要はないと思っている状態。 定量的： ①家具を固定している・一部固定している人：60.2% ②自宅の危険性に関わらず避難情報が発令された際に避難所に行かなければいけないと思っている人：大多数と予想 ③3日分以上の携帯トイレを備えている人：24.9% ※令和6年度西尾市市政世論調査結果から。 原因： ①面倒である、費用がかかる、必要性を感じない、固定の方法が分からない等。 ②災害種別毎の自宅の危険性や危険性に応じた取るべき行動を把握していないため。 ③災害時、公共施設のトイレが使えないことを知らないため。

問題 (ギャップ)	定性的： 災害への備えとして、水や食料の備蓄への注目が集まる一方、水や食料よりも大切な命を守る行動に市民の意識が向いていない。 定量的： ①家具を固定している・一部固定している人：60.2%を70%にする。 ②自宅の危険性に関わらず避難情報が発令された際に避難所に行かなければいけないと思っている人：50%にする。 ③3日以上以上の携帯トイレを備えている人：24.9%を50%にする。
これまでの取り組み	○市民を対象とした出前講座 実施内容： 災害に対する基本的な備えとして、住宅の耐震化や家具固定、ハザードマップの確認、ライフライン停止対策や備蓄についての講話 対象者： 市内に在住、在勤又は在学し、主として市内で活動を行っているおおむね10人以上で構成された団体、グループ 実施回数：29回 人数：939人 ○小さい子どもを持つ親への出前講座 実施内容：同上 対象者：子育て支援センターや保育園に通う子どもを持つ親 実施回数：23回 人数：304人 ○防災イベントへの出展 実施内容：携帯トイレの使い方説明 対象者：イベント参加者 実施回数：2回 人数：約100名 ○防災カレッジ 実施内容：防災に関する専門家の講師による講話 対象者：どなたでも 実施回数：4回 人数：333名 ※いずれもR6年度実績
民間事業者等側の 想定メリット	・他自治体への横展開が期待できます。 ・市の事業として広報します。自治体連携の事例として発信します。
民間事業者等に求 める専門性	・多くの市民に正確な知識を発信する力 ・災害への備えに対する知見の高さ



令和6年度 西尾市市政世論調査(抜粋)

URL: <https://www.city.nishio.aichi.jp/shisei/kocho/1001529/1010417.html>

死者数： 「過去地震最大モデル」 による想定

(人)

番号	市町村	建物倒壊等		浸水・津波			急傾斜地崩壊等	火災	合計
			(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち逃げ遅れ)			
14	西尾市	約 500	約 30	約 1,200	約 300	約 900	*	約 50	約 1,800
-	合 計	約 2,400	約 200	約 3,900	約 800	約 3,100	約 50	約 90	約 6,400

震度、津波高、津波到達時間、浸水面積（市町村別）：「過去地震最大モデル」 による想定

番号	区 分	最大震度	最大津波高 (m)	最短津波到達時間 津波高 30cm の到達 時間 (分)	浸水面積 浸水深 1cm 以上 (ha)
14	西尾市	7	5.1 (佐久島)	41 (佐久島)	5,155
-	愛知県	7	10.2	9	26,452

全壊・焼失棟数：「過去地震最大モデル」 による想定

(棟)

番号	市町村	揺れ	液状化	浸水・津波	急傾斜地崩壊等	火災	合計
14	西尾市	約 8,900	約 400	約 2,600	約 20	約 3,000	約 15,000
-	合 計	約 47,000	約 16,000	約 8,400	約 600	約 23,000	約 94,000

平成23年度～25年度

愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果(抜粋)

URL: <https://www.pref.aichi.jp/bousai/2014higaiyosoku/whitebooknew2.pdf>